

COVID-19で考えた： 「研究」ってなんだろう

研究者の皆様いかがお過ごしでしょうか。

COVID-19とともに「new normal」なんて言葉もきかれ、大学を含め社会の様々な場所で、仕組みが一変したり、価値観が根源的に揺さぶられたりということが起きています。研究者の皆様の中にも、改めて研究のあり方や意義について想いを巡らせた方々もいらっしゃるのではないのでしょうか。

研究井戸端トーク第1回の今回は、COVID-19を機に、「研究のこんなことで困っている」「研究者としてこんなことを考え始めた」「こんなことを始めてみた」など、研究者の皆様の現状や想いについてざっくばらんにおしゃべりします。新たな取り組みや考え方、価値観、協働など、未来に向けたトークや繋がりにも期待します。くだけた会です。お気軽にご参加ください。

2020.12.11. 16:30-17:30 (Zoom)

簡単な話題提供+自由な対話 (18:00よりオンライン懇親会)

対象：研究者・大学院生

事前登録：<https://bit.ly/3kIW52B>



金 鍾成 助教 (話題提供)

専門：教育学、社会科教育

これからの時代を生きていく子どもに必要な資質・能力や、教師の役割を研究。広島大学の拠点でもある教育ヴィジョン研究センター (EVRI) 平和・市民性教育ユニットにも所属。



有松 唯 准教授 (話題提供)

専門：考古学 (古代オリエント/中近東)

古代の国家形成を探求しイランで調査：人類史上の画期的現象の自生・展開・発達は、「我々はどこからきて、どこへゆくのか」という人文学の普遍的命題にもつながるのだとか。ユネスコ勤務経験あり。



丸山 史人 教授 (話題提供)

専門：環境遺伝生態学

環境中に生息する病原微生物の生存戦略の解明と共存戦略開発に取り組む。今年10月に未来共生建造環境センター立ち上げ。薬学博士。



馬場 卓也 教授 (司会)

専門：開発途上国、教育

「国際協力で重要なのは一歩前に踏み出すこと」とのこと。多岐にわたる国際協力が評価され、2020年にJICA理事長賞を受賞。